

派遣者番号	R6K07	氏 名	木内 悠斗
研究主題 —副主題—	中学校の学年教員集団におけるチームワークの向上に関する研究 —チーム・ビルディングによる態度的要素の信頼構築に着目して—		
派遣先大学	東京学芸大学 教職大学院	指導担当者	伊東 哲
所属	清瀬市立清瀬第四中学校	所属長	中西 規人

キーワード： チーム・ビルディング チームワーク 信頼構築

要旨： 本研究は中学校の学年教員集団を対象に、チーム・ビルディングを通じてチームワーク向上を図るものである。チームワークには行動的要素・態度的要素・認知的要素があり、その中でも心理的安全性を含む態度的要素がその基盤となる。本研究ではチーム・ビルディングを実施し、半構造化インタビューを通じてチームワークの態度的要素の基盤となる信頼関係の構築過程を分析した。その結果、自己開示が信頼関係の出発点となり、配慮や一体化へと発展することが明らかになった。信頼関係が強化されることで関係の質が向上し、結果として行動的要素の向上にもつながる。本研究の成果は、勤務校や自治体の研修で活用し、教員組織のチームワーク向上に貢献することが期待される。

中学校の学年教員集団におけるチームワークの向上に関する研究 ーチーム・ビルディングによる態度的要素の信頼構築に着目してー

木内 悠斗

1. 研究の目的

平成 27 年中央教育審議会は「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」を公表し、複雑化・多様化する課題を解決していくためには教員と多様な専門性をもつ職員が一つのチームとして連携・協働していく重要性を指摘した。しかし、当然ながら学校の組織力や教員集団の協働の成立が、チーム学校として外部連携以前の大前提となってくる。学校は分掌や学年等の組織から構成されており、チーム学校としての機能を高めていくためにはまず、学校内の組織のチームワークを高めていくことが求められる。

そこで本研究は中学校内のチームの一つである学年教員集団を対象にチームワークの向上を図ることとする。本研究で取り上げるチーム・ビルディングは組織開発やチームづくりとして広く普及し、業種を問わず、適用範囲が広いという特色をもっている。本研究はチーム・ビルディングを通してチームワークの態度的要素の基盤となる信頼関係がどのように構築されるのかを明らかにすることを研究目的とする。

2. 研究の方法

理論研究	調査研究	実践研究	まとめ
・チームワーク ・チーム・ビルディング ・組織の成功循環モデル ・心理的安全性	・先行研究調査 ・チームワーク測定 ・分析の視点	・チーム・ビルディング実施（2回） ・半構造化インタビューの実施	・分析と考察 ・研究の成果と課題

3. 研究の成果

3-1 理論研究

チームワークを構成する要素については三沢（2019）が①行動的要素②態度的要素③認知的要素の3点に整理した。チームワークの基盤には態度的要素の一つである心理的安全性が位置し、チーム・コミュニケーションを通してチームワークが向上していく。

また、ブルース・W・タックマンは5段階のチーム発展段階モデルとチーム・ビルディングについてまとめた。特に、形成期にメンバーの関係性が築かれていないと混乱期を乗り越えることが難しく、関係性を構築することによって成果を上げるチームに成長していくことを指摘した。

3-2 調査研究

まず、学年教員集団のチームワーク測定（行動的要素と態度的要素）を行った。三沢他（2020）によって、教員のチームワーク（行動的要素）に関する因子分析は「相互調整」、「職務の分析と明確化」、「知識と情報の共有」の三つの構成要素が抽出されている。また、態度的要素についてはエドモンドソン（2021）の心理的安全性の質問項目を援用した。図1より学年教員集団のチームワークの行動的要素は職務の分析と明確化が他と比較すると高くなって

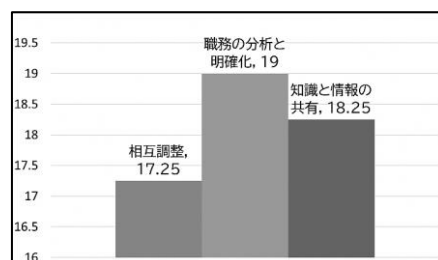


図1 チームワークの行動的要素の結果

【質問紙調査を基に筆者作成/各項目25点満点】

いる一方で相互調整が低くなっていることが読み取れる。図2に着目するとチームワークの態度的要素（心理的安全性）は比較的高いことが読み取れる。メンバー間の関係の質を向上させることで更なるチームワークの向上が図られることが予想される。

ところで、態度的要素（心理的安全性）を向上させるためには、メンバーが互いに信頼し合うことが大切であると言われている。信頼関係を築くためには言行一致、配慮、平等、自己開示、一体化といった行動を取ることが必要とされている。

3-3 実践研究

中学校の学年教員集団を対象にチーム・ビルディングを2回実施した。その後、半構造化インタビューを行い、チームワークの態度的要素の基盤となる信頼関係がどのように構築されているのか分析を行った。その結果、それぞれの教員の考えや価値観、得意なことや不得意なことなどを自己開示することが信頼関係構築の基盤となっていることが明らかになった。自己開示により、お互いを気遣う配慮や相手の問題に対して感情を移入して共に解決しようとする一体化へと信頼関係構築の行動がさらに広がっていくことが読み取れた。メンバー間の自己開示を日常の会話の中で無意識的に行っている場合もあれば、意識的にチーム・ビルディングを取り入れている場合もあるだろう。いずれにせよ、チームワークを向上させていくためには自己開示が信頼関係のスタートであると言える。お互いの信頼関係が構築されることで関係の質が高まり、結果的にチームワークの行動的要素も向上していくと考えられる。

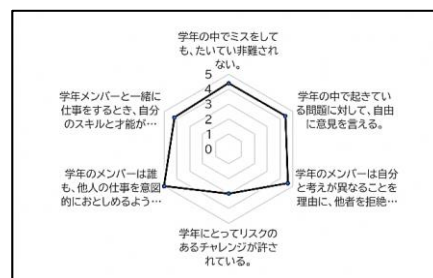


図2 チームワークの態度的要素の結果

【質問紙調査を基に筆者作成/各項目5点満点】

4. まとめと課題

本研究において、チーム・ビルディングは学校現場で学年教員集団のチームワークの態度的要素を向上させる手法として機能すること、また信頼関係の構築のための自己開示の重要性が明らかになった。そして、自己開示をスタートとして信頼関係の構築は配慮、一体化へと進んでいくことが示唆された。

本研究の課題は、チーム・ビルディングを継続して実施することができず、チームワークの変容を見取ることができなかった点である。さらに長い期間継続して実施することにより、本研究では対象とすることができなかったチーム・ビルディングの対話や議論、省察の段階まで実施することができる。今後の課題としたい。

5. 成果の活用法

本研究で取り組んだチーム・ビルディングの手法を勤務校の学年教員集団や分掌組織において、チームワークを高めるために活用していく。また、所属自治体内の研修会・研究会で研究成果を報告し、校外へも取組を広げていく。

6. 主な参考文献

- エイミー C. エドモンドソン(2021)『恐れのない組織 心理的安全性が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版。
堀 公俊(2007)『チーム・ビルディング 人と人をつなぐ技法』日本経済新聞出版。
三沢 良(2019)「チームワークとその向上方策の概念整理」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録 第171号』23-38頁。
三沢 良・森安史彦・樋口宏治(2020)「教師のチームワークと学校組織風土の関連性—チームとしての学校を実現するための前提の吟味—」『岡山大学教師教育開発センター紀要 第10号 別冊』。